

< 内容 >

講義「より良い判定（判断）をするために」

講師 日本バスケットボール協会 平 育雄 氏（神奈川県）

- ・バスケットボールはコンタクトのあるスポーツである。そのコンタクトがどのように目に写るかが大切である。

ケース1：ルーズボール

ポジショニングによってどのように目に写るかが違って来る。よりいいスペースとは、両プレーヤーの顔が見えるところである。プレーヤーを感じて動かなければならない。

ケース2：ピック・アンド・ロール スイッチ・アップ def

スクリーンがあると気づくことが必要。人に関心を持つ。

ケース3：センタープレーヤーのポジション争いからパスカット

必ずどちらかの審判が、プレイの始まりから目を当てておくことが大切。探すのは目で探すのではなく足で探す。汗をかく

ケース4：オールコートでの展開

トレイル オートマチックに動かない。選手を感じて（プレーヤーの顔を感じて）センターラインを超える意識。

リード センターラインを超えたあたりで判断。（プレーヤーの顔を見て判断）プレーヤーと同じタイミングでリードに入るのは、判断材料が足りない。選手の顔が見えない。プレーヤーが審判の位置を決める。

ケース5：ボールを持っていないプレーヤーに対するコンタクト

ボールとその周辺 ボールとレシーバーのことであって、エリアのことではない。ショットの後の動作ではシュートの動作を長くとらなければならない。

- ・信頼される判定をするために「協力」が必要である。そのためにはまず、自分のエリア（自分の庭）をきれいにすること。そしてそのためには人に興味を持って動くことが必要。たとえば、「ジャンプボールの笛をどこで鳴らすか...」ということである。

講義「平成20年度 指導重点項目から」

講師 日本バスケットボール協会 宮武康介 氏（兵庫県）

「試合のスムーズな進行・重要な時間帯への対応」

常に気配りができるようにしましょう。モップをかけてくれる生徒や、テーブルオフィシャルをしてくれる生徒たち、また携わってくれている人たちへの気配りが大切です。

「審判員としてのコンディショニング（心・身共）の自己管理意識の向上」

たとえば、試合の10分前に自分が何をやるか。いつも同じことをする努力を。（ルーティーン）自分の弱さを認めることも必要。（立て直す）

「個々のプレーの見極め」

トラベリングでないものをトラベリングと吹いてしまうのはダメ。

「ショットクロックの把握」

コートのみわりでも練習できる。

- ・ひとつの具体的な課題に対して、トライして、経験をして、発見をしてください。その積み重ねが上達につながります。また、きく力・ききとる力、整理する力、表現する力、自己分析する力、この4つのサイクルを大切にしてください。

<感想>

今回第3回審判強化講習会に参加して、平先生、宮武先生の講義を受け、あらためて考えさせられることが多かった。しかしそれらのことはよく考えると当たり前のことで、日頃諸先輩方から言われていることでした。また直接ゲームをみていただき、反省も頂くことができました。今後はもっとプレイを積極的に行く姿勢を全面に出すこと。判定基準をはっきり示すことが私のひとつの課題です。選手を感じて、よりいい判定ができるようにこれからも頑張っていこうと思います。

<全体を通して>

講師の宮武先生の話の中で出できたことで、「10人いたら10人の表現は違うが、審判として持つて行く方向は同じ。いいレフリーを目指してください、いいレフリーとは信頼されるレフリーです。」とても勇気づけられる話でした。この2日間大変有意義だったように思います。普段聞くことができない話であったり、考え方だったり、とても貴重な時間を過ごすことができました。しかし、全体の講評にもあったことですが、ゲームの入りが悪かったり、判定に厳しさが足りなかったりとまだまだこれからです。今の自分のステージを見極め、また一つ一つのスタンスを見直して、これからも頑張っていきたいと思います。